



ふるさと
—あなたと荒尾をつなぐ情報誌—



シロチドリ

Vol.5

市の鳥・シロチドリは渡り鳥です。シベリアから日本を訪れ、翼を休めた後、オーストラリアに越冬します。そんな渡り鳥の飛来地・荒尾干潟は渡り鳥のオアシスです。

特集

「あらお未来プロジェクト」 始動!

- 4 ①みんなで育む「人づくり」
本 ②みんなで築く「安心づくり」
の ③みんなで挑戦「夢づくり」
柱 ④みんなで創る「街づくり」

「あらお未来プロジェクト」
ってなんね～？
それっておいしかと？

地域の宝物である子どもたちを、地域や応援するみなさんで支える仕組みを進めています。安心して子育てができるまちを目指し、4つの柱を掲げ「あらお未来プロジェクト」として推進していきます。荒尾の「いま」と「これから」にご期待ください。

① みんなで育む「人づくり」

小学校の給食無償化が始まりました

小学生の学校給食費を補助する制度を平成29年10月から実施しています。子どもたちに、安心して学校給食を届けられるよう、給食を提供している小学校に通う児童は全てが対象です。小学校の給食費を全額補助する制度は、熊本県内の市では、初となります。



Interview

給食は、学校給食摂取基準を基本に、エネルギー量、タンパク質、鉄分、カルシウム、ビタミン類など子どもたちの成長に必要な栄養素が摂取できるものでなければなりません。しかし、食事は本来楽しむもの。献立を考えるときは、子どもたちが笑顔で「おいしい」と言いながら食べる姿を想像しています。子どもたちには食文化の奥深さを学んで欲しいです。給食には日本食だけでなく、世界各国の料理も取り入れています。さまざまな食材・料理との出会いが、世界の食文化を学ぶきっかけになります。また荒尾梨をはじめ、米・野菜など地元の食材も取り入れることで地産地消の大切さも伝えていきます。食事は生きていく上で最も基本となるものです。給食を通してたくさんの命を頂いて今の自分があるという感謝の気持ちと、みんなで食事をする楽しさを伝えられたらうれしいですね。



栄養教諭 藤丸奈美さん

【広報あらお掲載記事】

2017年10月号

●特集

「子ども 未来 創造あらお」

- ・小学校給食費無償化
- ・荒尾子ども未来基金
- ・よかまち荒尾 Good プロジェクトなど



Interview



給食センター所長 田上智子さん

学校給食センターは昭和47年3月に開設し、ことして46年目を迎えます。一番の人気メニューは、今も昔もカレーライス。子どもたちも喜んで食べてくれます。現在、市内、長洲町、荒尾支援学校の児童・生徒・先生たちを合わせて約5,900人の給食を作っています。県産の食材をできるだけ多く取り入れて地産地消を推進し、子どもたちに安心・安全、おいしい給食が提供できるよう努めています。

検証!!

【子育て世帯の負担軽減効果はどうなる?】

月4,200円×約11カ月＝約46,000円となり、子どもが一人の家庭でもこれだけの家計を助ける効果があります。子どもが2人いれば効果も2倍です。浮いたお金は子どもたちの教育費などに使うことができます。

Interview



大通恵美さん

中学生2人小学生2人の4人子どもがいます。以前は、月2万円ほどの給食費を払っており、一度にまとまったお金が動くのでやりくりが大変でした。今は小学生の分が無償化となり大変助かっています。

みんなで子どもたちを支えるまちへ

「荒尾子ども未来基金」を創設しました

子どもたちが地域の中で健やかに育ち、次世代を担う人材として成長するために役立てる事業を推進するため、昨年7月に市で1千万円を積み立てて、荒尾子ども未来基金を創設しました。趣旨にご賛同いただける、個人・団体・事業者の皆さんから広く寄附を募り、子どもたちのための事業に広く積極的に取り組んでいきます。



●基金を活用して取り組む事業分野

- ☆子育て支援に関する事業
- ☆教育環境の充実に関する事業
- ☆子どもの育成に関する事業など

活用の第一弾として、今年度は車椅子を利用する子どものために階段昇降車を学校に導入しました。また、平成30年度は英語検定チャレンジ事業に活用予定で、英語能力の向上を目的に中学1年生から3年生までの全員が英検(3級～5級)を受験できるようにします。

基金には、昨年7月の創設以降、8件6,611,107円(3月9日現在)のご寄附をいただいています。

引き続き、皆さんからの心温まるご理解とご支援をお待ちしています。

企画政策企画課企画統計係

☎0968-63-1274



基金を活用して導入した階段昇降車です。

子どもの学習環境の整備に取り組んでいます。安全で快適な教育環境の向上を図るため、小中学校の教室へのエアコン設置、体育館など学校施設の改修などを進めています。放課後児童クラブを全小学校区に開設しており、障がいのある児童への対応などもさらに拡充していく予定です。また、保育環境の充実を図るため、保育士の確保を進めるとともに、小規模保育所施設の整備も検討していきます。



関西地方から、修学旅行生がマジック釣りを体験しにやってきました!



昨年5月、兵庫県神戸市立西代中学校の3年生171人が修学旅行で荒尾干潟を訪れ、マジック釣りを体験しました。体験後には、マジックの天ぷらが振る舞われ、子どもたちは未体験の味に舌鼓を打っていました。

今年度は4校が荒尾干潟を訪れ、マジック釣りを堪能しました。



PICK UP!

マジック釣りサイコー!

② みんなで築く「安心づくり」 ③ みんなで挑戦「夢づくり」 ④ みんなで創る「街づくり」

新たなまちづくりが始まっています



トピックス1
現地建替決定！
新荒尾市民病院開院へ

懸案となっていた市民病院の建て替えについて、現在の市民病院敷地とその隣接地に建設することを決定しました。開院は、平成34年6月頃を見込んでいます。

新市民病院は、がん・脳卒中・急性心筋梗塞などの高度医療や、救急医療などを中心に5疾病5事業などの更なる「充実した医療の提供」、地域救命救急センター・災害拠点病院の指定などの「医療機能の強化」、ユニバーサルデザインを取り入れた「利用しやすい環境づくり」、公開講座の開催や医療福祉相談室の強化などの「地域に開かれた病院」、関連施設（介護施設など）との連携による「地域包括ケアシステムの構築」、を進めていきます。



トピックス2
荒尾競馬場跡地が生まれ変わります

「人・自然・新たな交流を育むウェルネス拠点」をコンセプトに、競馬場跡地一帯の土地区画整理事業を行い、再生拠点として整備を行います。地区中央には、有明海沿岸道路の荒尾北インターチェンジ（仮称）の設置が予定され、道の駅の設置も検討しています。商業地、住宅地や公園・緑地などを設け、賑わいと活力に満ちたまちを目指します。



トピックス3
道路開通でより便利に

国道389号（打越・市屋区間）が昨年6月に、県道平山荒尾線・荒尾南関線バイパスが11月に開通しました。

トピックス4
コホート調査研究地域に選定

認知症の発症、予防や進行抑制の方策を見つけることを目的に、全国高齢者1万人大規模認知症コホート研究が実施されています。実施地域の全国8か所の中に本市が選ばれました。これは、行政と医療介護関係団体や医師会・歯科医師会等の連携、市民病院とかがりつけ医の連携など、これまでの取り組みが評価されたものです。

ここにも注目！

さらなる荒尾の発展に向けて各種団体との協定を結びました



▲熊本大学との包括協定 ▲エネルギーに関する三者協定

熊本大学とは、コホート調査研究などで協力していましたが、包括協定を結ぶことで、さらに医療・福祉などまちづくりに関する連携を深めていきます。

三井物産(株)、(株)グローバルエンジニアリングと本市の3者による協定を締結し、電力の地産地消事業をはじめとした地域活性化につながる取り組みを推進していきます。

「住んでみたいまち、ずっと住み続けたいまち」を目指しています

移住・定住への取り組み

お試し暮らし体験住宅

あらお暮らしを気軽に体験してもらえ「お試し暮らし体験住宅」をご用意しています。電化製品などもそろって、1日1,080円で3日間から90日間までご利用できます。利用条件や部屋の取り取りなどの詳しい情報は、市ホームページにも掲載しています。

資料請求や問い合わせは、左記まで。皆さんからのご連絡をお待ちしています。
図政策企画課企画統計係
☎0968・63・1274



お試し暮らし体験住宅

Interview



移住・定住コンサル
上田恵子さん

昨年1月から地域おこし協力隊として、市内案内に加え、利用者の要望や移住プランに合わせ、移住・定住のお手伝いをしています。お試し暮らし体験住宅を利用された家族と一緒にジャガイモの収穫体験もしました。

体験住宅の周辺は、ショッピングモールや運動施設があり、とても便利な環境です。山あり海ありの荒尾市がどんなところか知るために、気軽に活用していただきたくですね。最大90日まで長期利用が可能です。体験



▲お試し暮らし体験住宅を利用された家族とジャガイモの収穫をしました。感謝のメッセージを頂き感動しました

住宅利用中に周辺エリアを散策して物件を探し、居住地域を決め、移住した人もいます。荒尾市で生活したことがない子どものために、Uターンを検討しているご家族の利用もありました。このように、仕事探しや住まい（生活圏を含め）をじっくり検討するなど、具体的な移住に向けての準備としての利用もできます。

私も荒尾市出身ですが、案内を通して新たな魅力をたくさん発見したので、皆さんに伝えていきたいです。体験住宅を利用して、あなたの知らない荒尾市の素敵なお知らせを見つけてみませんか。

空家バンク

空家バンクでは、市が窓口となり、所有者から空家売買などの相談を受け、熊本県宅地建物取引業協会と連携し、売買や賃貸の成約を目指します。空家バンクに登録すると、市のホームページなどでも物件の紹介を行います。

3月1日現在、総登録数16件、売買実績6件で、商談中の物件も多数あります。荒尾市内に空家をお持ちで、まだ不動産屋に仲介依頼していない人がいましたらお気軽にご相談ください。

図建築住宅課空家対策推進室
☎0968・63・1660



これからの荒尾市にご期待ください



荒尾市長
浅田敏彦

昨年2月の市長就任後、市の未来創り計画を「あらお未来プロジェクト」と定め、将来を担う子どもたちへの投資や地域経済の活性化に向けた取り組みなどに力を入れてきました。

今年度は小学生学校給食の無償化を実現し、来年度以降も学校教室へのエアコン設置や保育環境の整備など、教育環境や子育て支援の充実を図っていきます。その他にも、新市民病院の建設や競馬場跡地などを活用した新しいまちづくりなど、これからの市の明るい未来につながるさまざまな取り組みを進めていきます。魅力あふれる荒尾をさらに魅力的にし、「訪れてみたい、住んでみたい、ずっと住み続けたい」と思ってもらえるようなまちを目指します。

平成 29 年 荒尾市の主な出来事



さまざまなことが起こった平成 29 年
を荒尾市の出来事で振り返ります。

3月 荒尾高校が閉校

69年の歴史に幕を下ろした荒尾高校。3月1日には閉校式が行われました。平成27年度から、南関高校と統合し、岱志高校が開校しました。



10月 新嘗祭に奉納

新嘗祭献穀田の県代表として、野原八幡宮の神田が選ばれ、収穫された献穀米・粟は10月26日に皇居で行われた献穀献納式で献納されました。



2月 新市長に浅田敏彦就任

6・11月 市内2カ所で新道路が開通

8月 夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会開催

9月 荒尾市民病院の現地建設を決定

9月 熊本大学と医療・福祉などまちづくりに関する連携を強化

10月 小学校の給食費補助がスタート

10月 荒尾干潟がラムサール条約湿地登録から5周年

11月 地域エネルギーの有効活用等を中心としたまちづくりに関する連携協定



▲ラムサール条約登録5周年記念イベント

▲夏季巡回ラジオ体操



HOMETOWN

ARA O TOWN TOPICS

— まちの話題 —

荒尾マジック釣り大会大盛況

荒尾マジック釣り大会を荒尾漁協前の干潟で開催しました。夏の日差しが降り注ぐ青空の下、県内外から多くの参加があり、900人ほどがマジック釣りを楽しみました。

マジックは干潟に作った巣穴に異物が入ると、異物を敵と判断して押し出す習性があります。その習性を利用して、巣穴に毛筆を差し込んで、筆を押し上げてきたマジックを引き上げます。マジックとの駆け引きに、参加者の笑顔が溢れていました。



四ツ山公園展望所が完成



四ツ山公園内に展望所を設置しました。公園利用者や散策者などの休憩場所としての利用や、四山神社参拝者の訪問などが期待されています。大牟田から来た伊部さん夫婦は、「子どもの頃遠足で来たことがあります。荒尾の街並みがきれいに見え、雄大な雲仙普賢岳も眺めることができます。また足を運びたいです」と話しました。

府本小児童が市長に新茶を贈呈



府本小学校児童会の3人が、校内の茶畑で摘んだ新茶を市長に届けました。茶畑は、昭和8年にまかれた種が根付いたもので、昭和55年から毎年茶摘みをしています。総務委員長の植田君は、「地域の皆さんにも手伝ってもらいました。天候にも恵まれ、15kgの茶葉を摘んで、3kgの新茶ができました」と話しました。

子ども神楽が県文化財功労者を受賞



県文化財保護大会の中で、文化財功労者表彰式が行われ、上荒尾熊野座神社神楽保存会が地域に密着したこれまでの活動を評価されて受賞となりました。大会のオープニングアトラクションで神楽が披露され、会場からは、「難しい舞を見事に踊っている」、「神社の前で踊っている姿を見たい」との声が上がり、大好評でした。

ふるさとの応援をお願いします！

荒尾市ふるさと応援寄附金

「生まれ育ったふるさとを応援したい」「関わりが深い地域に貢献したい」という、あなたの思いを「荒尾市ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）」として、荒尾市の発展のために大切に活用させていただきます。

平成29年度は約1,930万円（H30.2月現在）の寄附をいただきました。

寄附の申し込み方法

寄附金申込書のほか、市ホームページからも申し込みできます。ふるさと納税ポータルサイト（ふるさとチョイス）から申し込みいただくと、クレジットカードでのお支払いもできます。

寄附金控除が受けられます

寄附した額のうち2千円を超える分は、おおむね個人住民税所得割額の2割を限度に控除されます。

お礼の品も用意しています

荒尾市外在住者で1万円以上の寄附をした人に、寄附額に応じて荒尾の特産品をお贈りします。約70品目を揃えており、ふるさと納税ポータルサイトから確認できます。また、お礼品カタログをご希望の人には郵送します。



企画政策企画課企画統計係 ☎0968-63-1274
Eメール：kikaku@city.arao.lg.jp

木質バイオマス発電事業の協定調印式



（株）有明第二発電所が、産業団地内に、市内では2基目となる木質バイオマス発電所を建設することとなり、県玉名地域振興局長立会のもと、市と協定を締結しました。県産の間伐材未利用材、製材端材を発電のための燃料に利用するほか、熊本地震で発生したがれきなどの処理も行うことで復興への支援をしていくことが期待されています。

学校給食～デザート梨の日～



市内の小中学校の給食に市産の荒尾梨「新高」が出され、甘くてみずみずしい秋の味覚を子どもたちは堪能しました。地元の特産品を通して食文化への理解と食育への学びを深めてもらおうと、「デザート梨の日」として毎年実施しています。ナシを頬張った子どもたちは、「口いっぱい甘いのが広がっておいしい」と笑顔を見せました。

万田坑デジタル掛軸 2017



万田坑デジタル掛軸 2017 を開催しました。デジタル掛軸は世界的なデジタルアーティストの長谷川章さんが考案したアートです。地球の自転と同じ速度でさまざまに変化していく、色彩豊かな抽象的な画像を投影します。屋間の風景とは違う、幻想的なアートに照らし出された万田坑の姿に、多くの来場者は足を止めていました。

広報あらお 67年間

～ Public Relations 67years Trajectory ～

の軌跡

広報あらお 1500号到達記念

広報あらおは昨年の9月号で1500号を迎えました。第1号である昭和25年5月15日号からの67年間の歴史の中で、さまざまなことを伝えてきました。当時の紙面の一部をご紹介します。皆さんが古里に思いをはせるきっかけになれば幸いです。



1968 (昭和43年)
7月10日号 (394号)

海水浴客で埋め尽くされた写真を背景に「海ひらく」の文字。荒尾海水浴場の海開きをお知らせしています。場所は南荒尾駅近くの海岸でした。昭和40年代後半～50年代前半には荒尾海水浴場は無くなりました。



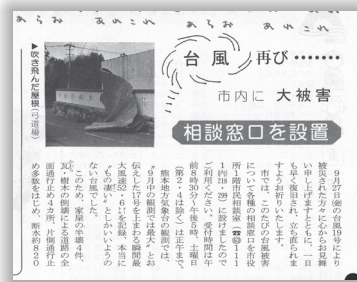
1972 (昭和47年)
7月10日号 (536号)

昭和47年7月にオープンした市民プールを特集した号。5つのプールに夜間照明なども完備されていたため、記事の中でも「豪華版」との記載があります。夏休みを市民プールで過ごした人も多いのではないのでしょうか。



1975 (昭和50年)
9月1日号 (609号)

昭和48年9月からの八幡住宅団地の開発を特集。昭和40年から開発が始まった桜山住宅団地に続くものです。以前は田畑や山林だった場所が住宅街に変貌し、一つの新しいまちが形づくられました。



1991 (平成3年)
10月15日号 (981号)

台風19号の被害相談窓口設置の記事です。家屋の半壊4件、道路の全面通行止め4カ所、断水8,200世帯、荒尾・大牟田管内の停電88,700世帯など甚大な被害がありました。



1997 (平成9年)
5月15日号 (1,108号)

平成9年4月にオープンしたあらおシティモール。市の特定商業集積事業として整備されました。量販店、ホームセンター、百貨店の核店舗の他、専門店70店が入店し、当時は九州で最大級の規模を誇りました。開店してからの3日間で18万人が訪れ、オープン当日に来場した学生さんも「にぎやかな街になってほしい」と話しています。

【広報あらお掲載記事】

2017年9月号

●特集

「広報あらお 67年間の奇跡」

- ・67年間の歴史を見つめる
- ・過去の広報担当者取材
- ・広報紙に掲載された市民のその後を追跡
- ・読者に聞く「広報紙の好きなところはどこですか」

語り

KATARU 編集後記

先日、認知症コホート研究の中間報告会に参加しました。全国8か所の中に選ばれた理由として、医療介護関係団体等の連携など、この地域のこれまでの取り組みが評価されたからとのこと。老後を安心して過ごせる環境が整っているというのは、生活する場所を決める際にも大きなプラスとなると思います。あらおよかとこですね。(吉田ふるさと情報誌「シロチドリ」も今回で記念すべき5冊目です。これもひとえに荒尾市を支えてくれる皆さんのおかげです。今回は「あらお未来プロジェクト」を特集しています。文字通り、荒尾市のこれからを占う大切なプロジェクト。荒尾市は今後、未来の荒尾を担ってくれる子どもたちに向けての施策をたくさん実行していきます。夢を描き、瞳をキラキラと輝かせる子どもたちが増えてくれたらいいなあ。もっと良い荒尾市にすることができるよう頑張ります。

皆さんの来荒をお待ちします。(日本)